

術後消化管出血が生じ、これにより1例が死亡した。脳動脈瘤では69例中28例で死亡例は2例であった。シメチジン投与により、脳出血では重症消化管出血が脳動脈瘤では軽症・重症ともに、有意に減少した。脳出血の血腫量と術後消化管出血との間には相関を認めなかった。脳動脈瘤術後の症候性脳血管攣縮と消化管出血の間には有意な相関を認めた。消化管出血の発生時期は脳出血・脳動脈瘤とも術後2~3日にピークを示したが、後者では術後3週間にわたり発生する傾向を認めた。これには、脳血管攣縮による病態の悪化が関与していると考えられ、脳動脈瘤術後にはこの期間を含め、シメチジンを投与する必要があると思われた。

#### 74. 顔面痙攣に対する減圧術後合併症

—硬膜外腔気腫の2治験例—

畑中 光昭・木村 正英 (十和田市立中央  
病院脳神経外科)

顔面痙攣に対する減圧術後の種々合併症が報告されているが、今回、我々が行った43例の Neurovascular decompression の術後硬膜外腔に空気が貯留して症状の発現のみられた2症例を経験した。症状は1)術部の緊迫感、2)頸捻転、頭位変換時の異常音、3)自声反響及び自声強勢を訴え、同症状の増強、6ヶ月の長期にわたるCT所見での空気残留、症状の残存を呈した。同症例に対して、術部を再開創し、Mastoid air sinusとの関連性(空気流入口の探索等)を求めたが確認できなかったが、同部の壁の搔把と人工骨弁による気腫腔の充填で症状の消失をみた。

Mastoid air sinus の手術による開放、露出からの合併症は滲出性中耳炎、髄液鼻漏などの報告はあるが、本2症例の如き合併症はまれなものと思われ、報告する。

#### 75. 前交通動脈瘤に対する Basal Interhemispheric Approach

安井 信之・大田 英則 (秋田県立脳血管  
鈴木 明文 (研究所脳神経外科))

前交通動脈瘤に対し、伊藤の anterior interhemispheric approach を行って来たが、この方法においても半球間裂の arachnoid trabucula で癒着した部の剝離範囲は少ない。そこで、arachnoid trabucula による癒着部の剝離範囲をより少なく approach ができる様に第3脳室前半部腫瘍に対して考えた Basal Interhemispheric Approach を前交通動脈瘤と対して応用した。開頭は両側前頭開頭に両側眼窩内側上壁から鼻根

部を含む開頭を追加、より下方より半球裂を直接動脈瘤の方向へ剝離する事により、剝離範囲を更に少なく、かつ脳圧排も少くして動脈瘤部への到達が可能であった。

現在迄に10例の前交通動脈瘤に対してこの方法を行い、全例問題なくクリッピングが行なわれ、感染例は1例もなく、美容上も問題を認めなかった。

#### 76. 第3脳室經由で到達した高位脳底動脈瘤の1例

佐々木達也・佐藤 昌宏 (福島県立医科大学)  
山野辺邦美・後藤 健 (脳神経外科)  
児玉南海雄  
倉島 康夫・菊池 泰裕 (公立藤田総合病院)  
脳神経外科

Megadolichobasilar anomaly を伴った脳底動脈末端部動脈瘤の手術は、subfrontal approach, pterional approach にも困難な場合が多い。

症例は62才女性、鞍背より24mmの megadolichobasilar anomaly を伴った脳底動脈末端部動脈瘤で第3脳室底部がすでに血腫により一部破壊されていた。手術は両側前頭開頭にて入り、interhemisphere を分け、lamina terminalis そして、一部破壊されていた第3脳室底前半部正中を開放して動脈瘤を処置した。術後軽度の電解質異常が出現したが、尿崩症、消化管出血、体温異常、食欲異常等の合併症や symptomatic spasm の出現もなく、現在意識レベルは2で運動麻痺もなく全身状態も良好である。

第3脳室底部がすでに破壊され、なおかつ高位脳底動脈瘤であるという場合の限定された approach と考えているが、megadolichobasilar anomaly を伴った脳底動脈末端部動脈瘤を、interhemispheric trans lamina terminalis approach にて処置した症例につき報告した。

#### 77. Mannitol, Vit-E, Dexamethasone 併用投与下に柄部切除、端々吻合を行った頸部内頸動脈瘤の一例

渡辺 孝男・村石 健治 (米沢市立病院)  
脳神経外科

症例は53才、男性。突然の意識消失と左片麻痺で発症。精査にて起始部より約35mm末梢に発生した右頸部内頸動脈瘤(外径約50×40×50mm、内腔約15×15×30mm)を原因とする脳塞栓と判明した。1984年10月31日、Mannitol, Vit-E, Dexamethasone 併用投与下に動脈瘤柄部を含む内頸動脈約10mmとその周囲の血